

リレー随想

「あの決心が私をダメにした」。娘は今の自分を、そう評価していないみたいだ。

「小さいころ私は、優しい人になるうと思っただとよね。それを私は、優しい人をおとなしい人と勘違いしてしまって…、あれから私のやることなすこと、何かおかしくなってしまった…」。三歳の時、なぜか強くそう思ってしまったと、ぼやいていた。

犬を飼うようになった効用の一つは、犬を散歩させながら、娘との会話が多くなったことだろう。親子とはいえ、世代も違うのに、いろんな話ができるものだと、犬を飼うようになったこのころになって感心している。

こうした機会を持つことに、もっ少し早く気がつくべきだったとも思うが、娘はどこかで歯車がかみ合わないまま、こころ

勘違い

土地家屋調査士

田口 一法さん



うやら終わってしまったみたいだ。

「そういう深い悩みがあったとはつゆ知らず、親としては、すまんことだったね」

話を聞きながらどうでもいい返事をしたが、「いいよもつ。

私もこんな風に、変な人間になっちゃったし…」と、私の知らないところで娘なりに、何らかの結論を出しているのだろう。

この親は何の役にも立ってない。

「大丈夫だよ。おまえの親も、結構変な部類の人間だから…」

「答えになってない」

「とにかく、何とか生きていく」

「うん、そつしよう」

娘とのこうした会話が楽しみで、犬の散歩もなるだけ一緒に行くようにしているが、このころは、娘の足取りが以前と比べて格段に速くなり、ふん拾いしながらでは、追いつくのがやっとで、会話をするのにも、ちょっと大変になった。

で成長してしまったとも思っているのだろうか？。そんな気持ちでいるとしたら、寂しいが、そんなこんなで私の子育てはど